



# 第42回 愛媛形成外科研修会

## 抄録集

日 時 平成30年12月1日(土) 17時00分～  
場 所 H I T O病院  
3階 大会議室  
愛媛県四国中央市上分町788番地1  
TEL: 0896-58-2222

当番世話人

H I T O病院 形成外科 田中 伸二



## 第 42 回 愛媛形成外科研修会

### 研修会について

1. 参加受付は、16時30分より会場で行います。
2. 参加費として2,000円を受付にて申し受けます。  
今回の特別講演は、日本形成外科学会の「領域講習」に認定されております。  
「領域講習」として受講される専門医の方は受講料として1,000円を申し受けます。
3. 演者でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取りください。
4. 一般演題での発表時間は、一題あたり5分と3分、質疑応答は3分を予定しています。
5. PCはWindows7、PowerPoint2016を使用しての発表になります。  
(当日は、USBメモリーあるいはPC本体をお持ちください。)

## 会 歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第1回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成10年7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成10年12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成11年6月19日	20名
第4回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年12月9日	20名
第7回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年6月18日	31名
第16回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成17年12月10日	35名
第17回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成18年6月24日	31名
第18回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成18年12月9日	26名
第19回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年6月16日	37名
第20回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年12月15日	30名
第21回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成20年6月14日	30名
第22回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成20年12月6日	30名
第23回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年6月27日	32名

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 24 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 12 月 12 日	28 名
第 25 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 6 月 19 日	34 名
第 26 回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 12 月 11 日	30 名
第 27 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 6 月 18 日	31 名
第 28 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 11 月 26 日	25 名
第 29 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4 階 末広	平成 24 年 6 月 23 日	34 名
第 30 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 24 年 12 月 1 日	26 名
第 31 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 25 年 6 月 22 日	36 名
第 32 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2 階 楓の間	平成 25 年 11 月 30 日	30 名
第 33 回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 26 年 6 月 21 日	32 名
第 34 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 新館カフאלス会議室	平成 26 年 11 月 29 日	32 名
第 35 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 27 年 6 月 27 日	36 名
第 36 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	HITO 病院 3 階 大会議室	平成 27 年 11 月 21 日	27 名
第 37 回	手塚 敬 (松山市民病院 形成外科)	松山市民病院 2 階多目的ホール	平成 28 年 6 月 11 日	32 名
第 38 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 28 年 12 月 10 日	30 名
第 39 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 3 階中会議室①②	平成 29 年 6 月 24 日	36 名
第 40 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 本館 研修室	平成 29 年 12 月 9 日	32 名
第 41 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	松山赤十字病院 4 階多目的ホール	平成 30 年 6 月 9 日	27 名
第 42 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	HITO 病院 3 階 大会議室	平成 30 年 12 月 1 日	

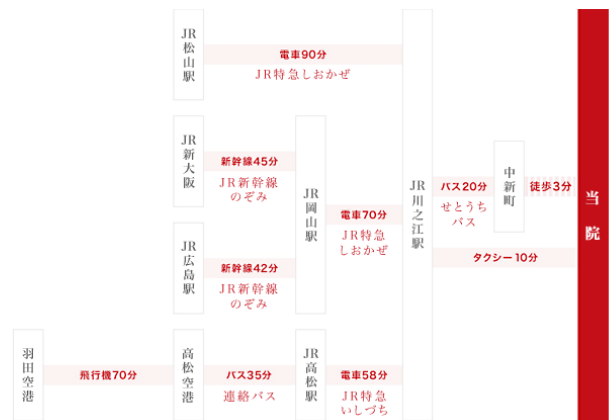
## H I T O 病院へのアクセス

### 周辺マップ



### 公共の交通機関をご利用の場合

鉄 道	JR予讃線・川之江駅よりタクシー10分
バ ス	せとうちバス中新町停留所・徒歩3分
車	三島川之江I.Cから池田方面へ10分 三島川之江I.Cから最初の交差点を右折(11号線川之江三島バイパスへ)し、大きい交差点(有限会社タカハシサービス機器様が左手にあります)を右折、直進してサークルKサンクスを越えて左手に駐車場入り口が見えます。



### 駐車場案内



## プ ロ グ ラ ム

### Section I (17:00~17:40)

座長：H I T O 病院 戸田 皓大 先生

1. 当院で経験した 3 例の抗酸菌性膿瘍 (5 分)

松山赤十字病院 形成外科 中川 舞 他

2. 「OASIS®細胞外マトリックス」の使用経験 (5 分)

愛媛県立中央病院 形成外科 田中 克弥 他

3. 患者からの同意が得られず治療方針決定に難渋した糖尿病性足潰瘍の 1 例 (5 分)

高知赤十字病院 形成外科 大川 勝正

4. 多発性陰唇粉瘤症に合併した小陰唇毛巣洞の一例 (3 分)

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 泉本 真美子 他

5. 頸椎棘突起部に発生した巨大外骨腫の一例 (5 分)

H I T O 病院 形成外科 米田 武史 他

### Section II (17:40~18:20)

座長：H I T O 病院 米田 武史 先生

6. 右踵部 amelanotic melanoma の 1 例 (5 分)

高知医療センター 形成外科 五石 圭一

7. 臍ポリープの 1 例 (3 分)

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹 他

8. 口蓋垂のデルモイドシストの 1 例 (5 分)

四国こどもとおとなの医療センター 形成外科 松村 辰彦

9. 仙骨部褥瘡に対しブリッジング手技を併用し NPWT-id を行った 1 例 (5 分)

H I T O 病院 形成外科・美容外科 戸田 皓大 他

10. 当院における DP 皮弁の使用について検討 (5 分)

四国がんセンター 形成外科 藤田 悟志 他

休憩 (10 分)

総会 (18:30~18:45)

### 特別講演 (18:45~19:45)

座長：H I T O 病院 田中 伸二 先生

「穿通枝皮弁を利用した外陰部再建・下肢救済手術」

講師： 徳島大学 形成外科 教授 橋本 一郎 先生

共催： 松山形成外科医会 愛媛形成外科医会

Section I (17:00~17:40)

座長：HITO病院 戸田 皓大 先生

1. 当院で経験した 3 例の抗酸菌性膿瘍

松山赤十字病院 形成外科

○中川 舞、庄野 佳孝

(5分)

我々は最近、抗酸菌膿瘍を 3 例経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症例は、①Chronic expanding hematoma の疑いで当科紹介された 73 歳女性の左大腿部巨大膿瘍、②42 歳女性の右耳前部膿瘍、③培養で原因菌の同定ができず治療に難渋している 71 歳女性の尾骨部膿瘍である。

2. 「OASIS®細胞外マトリックス」の使用経験

愛媛県立中央病院 形成外科

○田中 克弥、徳永 和代、尾崎 絵美、石野 憲太郎、中川 浩志

(5分)

平成 26 年 6 月に新しいコラーゲン使用人工皮膚として「OASIS®細胞外マトリックス」が本邦で承認された。これまでの人工真皮と違いシート内に天然組成のマトリックス分子を保持していたり、使用方法等にも若干の違いがある。

今回、当院において頭頂部 SCC の切除後、広範囲に骨露出した症例において OASIS®を使用する経験を得たため、使用方法や経過を提示するとともに文献的考察を加えて報告する。



3. 患者からの同意が得られず治療方針決定に難渋した糖尿病性足潰瘍の 1 例

高知赤十字病院 形成外科

○大川 勝正

(5 分)

すべての医療行為は患者本人もしくは親権者などの同意のもとに行われる必要がある。今回、糖尿病性足潰瘍にて大切断が必要であったが、患者の同意が得られず、治療が進まなかった症例を経験した。判例を交えて報告する。

4. 多発性陰唇粉瘤症に合併した小陰唇毛巣洞の一例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○泉本 真美子、戸澤 麻美、木村 千寿、村上 達郎、三宅 啓介、森 秀樹、中岡 啓喜

(3 分)

37 歳女性。2018 年 5 月から陰部に掻痒感を伴う結節を自覚した。徐々に増加し、発汗時に疼痛を伴うようになった。婦人科で陰部ヘルペスとして加療されるも改善なく当科受診した。左大陰唇に白色の多発皮下結節を認め、左小陰唇には 10 本程の毛束の迷入を伴う数ミリ大の瘻孔を認めた。瘻孔は陰唇尾側に開口しており、毛巣洞として切除した。比較的稀な小陰唇に生じた毛巣洞の 1 例を経験したので、若干の文献的考察を加え報告する。

5. 頸椎棘突起部に発生した巨大外骨腫の一例

H I T O 病院 形成外科<sup>1)</sup>、高知赤十字病院 形成外科<sup>2)</sup>

○米田武史<sup>1)</sup>、中西秀樹<sup>1)</sup>、大川勝正<sup>2)</sup>

(5分)

症例は 57 歳女性。20 年以上前に、後頸部正中の皮下腫瘍に気づいていた。当院で撮影された CT にて、後頸部の石灰化腫瘍を指摘され当科紹介となった。摘出術を行い外骨腫の診断であった。頸椎に発生する外骨腫は比較的稀であり、また今回の症例では外骨腫と棘突起に明らかな連続性がなかった。文献的考察を加えて報告する。

Section II (17:40~18:20)

座長：HITO病院 米田 武史 先生

6. 右踵部 amelanotic melanoma の 1 例

高知医療センター 形成外科

○五石 圭一

(5分)

80 歳、女性。右踵部に長径約 2 c m の赤色隆起性腫瘍があり、他医にてステロイド外用でフォローされていた。治癒傾向なく生検の結果、amelanotic melanoma と診断され当科紹介。手術加療を行ったが多発転移のため、現在免疫チェックポイント阻害薬で治療中である。

7. 臍ポリープの 1 例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科<sup>1)</sup>、市立宇和島病院 形成外科<sup>2)</sup>

○森 秀樹<sup>1)</sup>、野澤 竜太<sup>2)</sup>

(3分)

2 歳、男児。生後 3 ヶ月ごろより臍部に腫瘤を認めており、出血を繰り返していた。皮膚科および小児科で外用薬処方されていたが治癒しないため当科紹介。CT では臍部皮下に限局する病変を認め、尿膜管遺残を疑って全身麻酔下で摘出した。病理診断では腸管上皮に類似した円柱上皮を認めた。

8. 口蓋垂のデルモイドシストの 1 例

四国子どもとおとなの医療センター 形成外科

○松村 辰彦

(5分)

11 ヶ月、女児。出生時に指摘はなかったが、感冒にて近医小児科受診時に口蓋垂の腫瘤を指摘され、脂肪腫の疑いで紹介される。嚢腫疑いにて全身麻酔下での切除術を行った。

9. 仙骨部褥瘡に対しブリッジング手技を併用し NPWT-id を行った 1 例

H I T O 病院 形成外科・美容外科

○戸田 皓大、米田 武史、田中 伸二

(5分)

今回我々は、骨盤輪骨折に対し脊椎後方固定術を行った患者において、仙骨部のプレート固定部位に褥瘡が発生した症例を経験した。プレート抜去手術後の骨露出を伴う褥瘡に対して、ブリッジング手技を併用して NPWT-id を行い良好な結果を得た。本邦でブリッジング手技を併用した NPWT-id の治療症例は認めなかったためこれを報告する。

10. 当院における DP 皮弁の使用について検討

四国がんセンター 形成外科

○藤田 悟志、河村 進、山下 昌宏

(5分)

DP 皮弁 (deltopectoral flap) は、内胸動脈穿通枝を主栄養血管とする皮弁である。1917 年に Aymard が胸部皮弁として原型を報告し、1965 年に Bakamjian により下咽頭頸部食道再建に用いられた。その後、頭頸部再建で遊離皮弁移植術が多用されてからは、salvage flap として使用されることが多くなった。当院において、2011 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日までの 7 年間に、DP 皮弁を使用した 23 症例について検討を行った。症例を提示し報告する。

休 憩 (18:20~18:30)

総 会 (18:30~18:45)

1. 次回研修会の日程

2. その他

特別講演 (18:45~19:45)

座長: HITO病院 田中 伸二先生

「穿通枝皮弁を利用した外陰部再建・下肢救済手術」

講師: 徳島大学 形成外科 教授 橋本 一郎 先生

# MEMO